

宇宙線 の発見から 100 年、 X線天体 の発見から 50 年

2012.11.27 [火]
10:00 ~ 17:30

理化学研究所 和光キャンパス
大河内記念ホール

1971

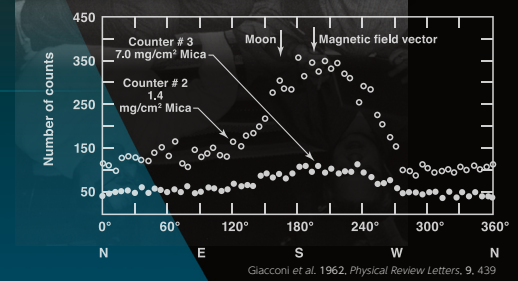
はくちょう座X-1をブラックホールと示唆



小田裕善「はくちょう」の思い出より

1962

X線天体(さそり座X-1)発見



Giacconi et al. 1962, Physical Review Letters, 9, 439

1937

ミューオン質量決定

1936

ミューオン発見

1912

宇宙線発見



<http://maxi.riken.jp/conf/cr100X50>

主催：理化学研究所 基幹研究所 宇宙観測実験連携研究グループ、理化学研究所 仁科加速器研究センター 玉川高エネルギー宇宙物理研究室
〒351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1 TEL : 048-467-8267

宇宙線の発見から100年、 X線天体の発見から50年

理化学研究所 和光キャンパス
大河内記念ホール

2012年11月27日(火)

10:00-17:30

18:00- 懇親会 (広沢クラブ)

<http://maxi.riken.jp/conf/cr100X50>

今年2012年は、ヘスによる宇宙線の発見から100年、ジャコーニらによるX線天体の発見から50年にあたります。理化学研究所(理研)は、仁科芳雄や小田稔を始めとして、これら両分野で黎明期から先駆的な研究を行ってきており、日本におけるこれらの研究の発祥の地とも言えるでしょう。また理研が中心となって運用している全天X線監視装置MAXIも、軌道上で連続観測を開始して3年になります。この記念すべき機会をとらえ、理研の歴史的貢献をレビューするとともに、「宇宙」を縦糸、「理研」を横糸として、未来に向け新しいサイエンスを紡ぎ出す契機といたく、本シンポジウムを開催します。

(※各分野のプロジェクトの紹介ではなく、サイエンスと夢を語って頂きます。)

参加登録 **不要**
参加費 **無料**
※懇親会費別途

プログラム ※当日プログラムが変更になる場合があります。

10:00-10:10	シンポジウム主旨説明	松岡 勝	理化学研究所
10:10-10:40	宇宙線の特性の研究、ミューオン発見秘話	西村 純	元宇宙科学研究所長
10:40-11:05	宇宙X線の50年(1)	牧島 一夫	理化学研究所
休憩			
11:20-11:45	宇宙X線の50年(2)	河合 誠之	東京工業大学
11:45-12:05	MAXI で見た全天のX線天体の活動	三原 建弘	理化学研究所
12:05-12:35	宇宙生物学のこれから	中野 明彦	理化学研究所
昼食			
13:30-13:50	超高エネルギー宇宙線(1)	佐川 宏行	東京大学宇宙線研究所
13:50-14:10	超高エネルギー宇宙線(2)	戎崎 俊一	理化学研究所
14:10-14:40	ガンマ線で見える高エネルギー宇宙	手嶋 政廣	東京大学宇宙線研究所
休憩			
14:50-15:20	宇宙線ミューオンを用いた地球科学	田中 宏幸	東京大学地震研究所
15:20-15:50	中性子星とハドロン高密度相、そして超弦理論	橋本 幸士	理化学研究所
15:50-16:10	新しいX線観測手法としての偏光観測	玉川 徹	理化学研究所
休憩			
16:20-16:50	光格子時計が見るパーソナルスケールの相対論	香取 秀俊	理化学研究所
16:50-17:20	宇宙での原子分子物理	東 俊行	理化学研究所
17:20-17:30	concluding remarks	井上 一	宇宙科学研究所

主催：理化学研究所 基幹研究所 宇宙観測実験連携研究グループ
理化学研究所 仁科加速器研究センター 玉川高エネルギー宇宙物理研究室

〒351-0198 埼玉県和光市広沢2-1 TEL: 048-467-8267